

寄宿舎だより

愛知県立名古屋盲学校 寄宿舎

第3号

令和8年 2月発行

寒さの中にも、少しずつ春の気配を感じる季節となりました。3学期も残りわずかとなり、舎生たちは楽しく元気に過ごしています。また、寄宿舎に新しく3名の舎生が加わりました。最初は少し緊張した様子も見られましたが、今では舎生同士が声をかけ合いながら、笑顔で過ごす時間が増えてきています。保護者の皆様には、日頃より温かい御支援をいただき、心より感謝申し上げます。



冬のお楽しみ会



旭丘高校弦楽部の皆さんをお招きし、生演奏を披露していただきました。演奏中は耳を傾けたり、リズムに合わせて体を揺らしたりする姿が見られ、弦楽器の美しい音色を楽しみました。交流ゲームでは「頭の文字とお尻の文字をつなぐゲーム」に挑戦しました。各チームで相談しながら答えを導く姿が印象的でした。夕食はみんなで歓談しながら、リクエストメニューを囲んで和やかな時間を過ごしました。



食事会



近隣の飲食店まで安全に気をつけて行ってきました。店には点字メニューもあり、舎生が自分で内容を確認する姿が見られました。一方で、タッチパネルの注文や会計では操作の難しさを感じる場面もありましたが、友達や職員との会話を楽しみながら食事をしました。舎生の感想として「楽しかった」「また行きたい」という感想が多く、楽しい食事会となりました。

卒業を控えた寄宿舎生からのメッセージ

本年度の締めくくりにあたり、卒業学年の寄宿舎生が新たな一步を踏み出す準備を進めています。

この機会に、寄宿舎生本人と保護者様より、寄宿舎生活の思い出を込めた温かいメッセージをいただきました。

卒業舎生より

僕は寄宿舎での4年間、生活に必要なものを自分の足で買いに行き、それを実際に使いながら暮らしを整えていきました。その中で感じた「自分の生活を自分の力でつくり上げている」という実感は、とても大きな喜びでした。また、他学部の子童・生徒のみなさんと交流できたことも、貴重で楽しい思い出です。特に職業科の方々との関わりは、これから社会へ出ていく自分にとって大きな学びとなり、とても有意義な時間でした。

卒業舎生の保護者より

約6年前、中学2年生の時に病気によって突然視力を失い、4年前に盲学校高等部へ入学しました。点字での学習に加え、慣れない環境での生活が始まることに、私たち家族はたくさんの心配と大きな不安を抱えていました。しかし、寄宿舎の先生方、そして舎生のみなさんが本当に温かく迎えてくださり、息子にとって寄宿舎は心地よく安心できる場所になりました。一時、治療のため数か月間の自宅療養が必要になったときも、息子は「寄宿舎に戻りたいから、そろそろ学校に行きたい」と話しており、年齢の違う舎生のみなさんと過ごす日々が、息子の心の豊かさや強さを育ててもらったように感じます。不安定な体調の中で過ごした4年間を温かく支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。



今年度を振り返って



今年度も残りわずかとなりました。初めて寄宿舎生活を経験した舎生にとって、毎日の生活は新しい発見の連続だったと思います。環境の変化に戸惑いながらも、生活リズムを整え、少しずつ自分のペースをつかんでいく姿が見られました。寄宿舎ではさまざまな年齢の舎生が共に生活します。その中で、年上の舎生たちに優しく声をかけてもらったり、反対に年下の舎生の行動を気かけたりと、自然な関わりの中で人との距離の取り方や思いやりの気持ちが育っていると思います。一緒に過ごす時間を通して、人間関係の広がりや成長を感じる一年になりました。

この一年間、御家庭の支えがあったからこそ、子どもたちは安心して寄宿舎での日々を積み重ねることができました。心より感謝申し上げます。来年度も、子どもたちが「ここが安心できる場所だ」と感じながら、自分らしく過ごし、成長できるよう、職員一同で丁寧な支援を続けてまいります。引き続き御理解と御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

